

第 4 回板橋区資源環境審議会清掃・リサイクル部会 議事録

(令和7年 7 月 1 日(火): 午後 1 時 00 分～午後 2 時 30 分)

○資源循環推進課長

それでは、定刻になりましたので、これより第 4 回清掃・リサイクル部会を開会します。本日はお忙しい中、また、暑い中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。私は、清掃・リサイクル部会事務局の資源循環推進課長、小熊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、磐田副部会長さま、大塚委員さま、小泉委員さまのお三方からご欠席のご連絡をいただいています。また、板橋区町会連合会、板橋区資源リサイクル事業協同組合の 2 団体におきましては、委員の変更につきまして板橋区資源環境審議会で手続き中ということですので、今回はご欠席の扱いとなります。よろしくお願いいたします。では、以降着座にてお話しします。

それでは、審議に入る前に資料の確認をお願いします。本日お配りしました資料ですが、机上配布としまして委員名簿、その後ろが座席表、そしてご意見・ご質問シート、磐田副部会長さまからのご意見・ご質問、参考資料「参考資料 板橋区版ごみ減量・資源化目標の設定例」、「達成目標」という資料となっています。また、事前に送付したのですが、資料 1「(仮称)板橋区一般廃棄物処理基本計画 2035 策定スケジュール、清掃・リサイクル部会検討内容について」、資料 2「同素案」、資料 3 として「計画目標事例」です。以上ですが、不足の方はいらっしゃいますか。ありがとうございます。

なお、本日、傍聴者はいませんのでよろしくお願いいたします。それでは、石垣部会長さま、進行をお願いします。

○会長

改めまして、国立環境研究所、石垣です。よろしくお願いいたします。皆さま、暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。この会の趣旨などを考えると、本来、人の体のことを考えて、負荷が出てくるような会議というのは、少し時間帯をシフトするなど考えてやっていけないといけないと思いつつも、皆さまのご都合の合う時間がどうしても暑い日中の時間帯になってしまうことをどうかご容赦いただければと思います。審議につきましては皆様、建設的な意見交換、ご意見等をしていただければと思います。

本日の審議いただく内容としましては、「板橋区一般廃棄物処理基本計画の素案(案)」についてになります。前回まで骨子案についてご説明、ご審議いただきましたが、今回はそれをさらに進めていただいた素案内容についてのご審議ということです。今回は、その前半の半分程度になると思いますが、情報発信・普及啓発、発生抑制(リデュース)、食品ロス削減推進計画に関する部分の 3 点になると思います。それから、計画目標についてご説明いただけるように資料を用意していただいています。

それでは、まず、素案について、資料 1 を用いまして事務局からご説明をお願いします。

○資源循環推進課長

はい。よろしくお願いします。それでは、資料 1「(仮称)板橋区一般廃棄物処理基本計画 2035 策定スケジュール」という A3 横の資料をご覧くださいと思います。

上の表の下から 2 段目が本清掃・リサイクル部会となります。本年 4 月および 5 月の 2 回におきまして、骨子案を基にご審議いただきました。骨子案は、先月 6 月 24 日に区の会議体であるエコポリス板橋推進本部で決定しました。そして、本日 7 月と来月 8 月の 2 回において、素案をご審議いただきますのでどうぞよろしくお願いします。なお、骨子案および本日までの素案の検討・進捗につきましては、今月 22 日の資源環境審議会にてご報告をします。

その下は、清掃・リサイクル部会検討内容です。骨子案では、計画全体を 2 つに分けてご審議いただきました。素案におきましても同様とします。つきましては、本日は素案(案)について、情報発信・普及啓発、発生抑制、食品ロス削減推進についてご審議いただきます。なお、次回は再生利用促進(リユース・リサイクル)、収集運搬計画、適正処理・処分計画、生活排水処理基本計画が来月となります。資料 1 に関するご説明は以上です。

続けて、計画目標につきましては、お配りした資料の中の資料 3 です。こちらですが、計画目標につきましては、計画目標に用いる指標は KGI に該当するものでありまして、資料 2 の素案に記載をするものです。現行の一般廃棄物処理基本計画では指標を 2 つ設けていまして、一つが区民 1 人 1 日当たりの資源・ごみ量、もう一つがリサイクル率でした。表 1 の「一般廃棄物処理基本計画の代表的な指標の事例」をご覧ください。区の計画策定に当たりましては、他区の事例を参考にしつつそれぞれの特徴を整理し、区の指標として 4 つの指標について検討しています。

まず一番左、区民 1 人 1 日当たりのごみ排出量です。これは新宿区他が採用していまして、目標設定の考え方はごみの排出を少なくすることと資源の分別を徹底するというものです。計算式としては、家庭系のごみ量を人口×365 日で除したものととなります。板橋区が採用している現在の指標との違いは、資源を除いているということとなります。

続いて左から 2 番目、区民 1 人 1 日当たりの総排出量です。これは現在板橋区が採用しているものでありまして、他区では台東区他が採用しています。目標設定の考え方は、リデュース・リユースがリサイクルに優先するというのを踏まえまして、不用物そのものを少なくすることを目指すというものです。計算式は記載のとおり、家庭系総排出量、つまりごみと資源の総量を人口×365 で除すというものです。これら 2 つは一人一人の努力が指標に反映されること、今後 23 区で予想される人口の増に影響されないことが特徴となっています。総人口に影響されない半面、人口の増加によるごみ・資源の総排出量への評価を含まないことが特徴となります。

続いて、その右が資源化率です。板橋区が現在採用していまして、他は品川区他が採用しています。目標設定につきましては、分別品目や資源化量の増の推進を測れる、測定できるものとなっています。計算式は、収集資源量を家庭系総排出量で除したものととなります。本指標につきましては、本部会でもご意見がありましたとおり、資源の軽量化の影響を受け資源化率が構造的に上がりづらいものとなっています。

最後に、一番右が年間排出量です。千代田区他が採用しています。目標設定の考えとしては、ごみ・資源の総量の削減を推進するものとなっています。計算式は、区内で発生するごみ・資源の総量です。区によっては資源を入れないというものもあります。

さて、これらの 4 指標について検討しまして、区では太枠の 2 指標を採用したいと考えています。太枠の下の左のほう、区民 1 人 1 日当たりの総排出量を計測しまして、また新たに年間排出量を指標とするものです。理由としましては、リサイクルよりも前にまずリデュース・リユースを目指すこと、そして清掃工場および最終処分場をできる限り長期的に利用するという点から、事業系である持ち込みごみを含めごみ・資源の総排出量の削減を図ることが必要ということです。

裏面をご覧くださいければと思います。表 2 ですけれども、「重点的な取組をターゲットとした目標設定の事例」です。区によっては、事業系ごみに特化した指標を用いるなど行っているところ。板橋区におきましては、このような事例を参考にしつつも、紙類、生ごみ、プラスチックの削減目標や目安といった視点で KGI の下位の目標値、あるいは参考値としての記載について、紙類、生ごみ、プラスチックというところで検討しています。数値の設定に当たりましては、国や都が設定する削減量目標もありますので、そちらを踏まえて区で KGI の下の目標として設定することを考えています。

最後になりますが、表 3「食品ロス削減推進計画の計画目標の事例」です。本計画から食品ロス削減推進計画を内包していますため、食品ロス単独での指標の設定を検討しています。表には、幾つかの区と国と都の目標を整理しています。食品ロス削減量を測定するためには、いわゆる袋を開けて中を調べる組成調査を毎年実施するという方法もありますが、この方法は調査費用が相当額になるというところから、区としては KGI としては計画満了時の目標値を定めることとしました。後ほどご説明しますが、KPI として、いわゆる代替指標として食ロス削減推進計画で用いる各種指標を用いるというように考えています。計画目標の設定につきましては、以上です。よろしくお願いします。

○会長

ご説明ありがとうございました。スケジュールのところとそれから目標の設定例というか目標の案というところで、計画目標案をご説明いただきました。この点で何かご質問、ご意見等ありましたらお願いします。毎度のことで恐縮ですけれども、ご発言の前にご自身のお名前を言っていたいから発言していただけると助かります。よろしくお願いします。

スケジュールは、これで問題ないと思います。計画目標のほうはいかがですか。この時点でなければ、いったんまた資料 2 のご説明をいただいてから、それとまたこの関係はどうなっているのかというところを含めて、もう一度ご質問いただければと思いますので、いったん次に進めたいと思います。

○委員

1 点だけ。この資料 1 の策定スケジュールですけれども、来年の 3 月までに策定ということで、これは基本計画の策定スケジュールですね。またこれに基づいて実施計画など、その下の

より実行部隊に近い計画が策定される予定になっているのですか。それが私は初めてなので理解できないものですから、確認させてください。

○資源循環推進課長

事務局からご説明します。いわゆる実施計画というよりは本計画内での各年度の各事業という形になります。事業がこれに基づいて構成されるという形になります。

○委員

基本方針をここで決めておいて、実際の実働部隊がどう動く、どのような政策にするというのは、また別途に区の側で実施されるということですか。

○資源循環推進課長

そうです。実際のこちらの計画に基づきまして、実際に今回の計画で予算化が必要なもの等があったりしますので、この計画を踏まえて予算の調整をする、事業の調整をするという形になります。

○委員

ありがとうございます。

○会長

よろしいですか。それでは、今日のいわゆる審議の本体というか資料 2 のご説明について、ご説明をよろしくお願いいたします。

○資源循環推進課長

それでは、資料 2「(仮称)板橋区一般廃棄物処理基本計画 2035 素案」をご覧くださいければと思います。

まず、20 ページをご覧くださいければと思います。20 ページは「達成目標」ということになっていて、こちらは 2 つ達成目標があり、その下にイメージ図を作ることになっていますが、こちらはまたこの資料 2 の後にご説明したいと思います。

続いて、22 ページをご覧くださいければと思います。こちらは少し先走ってしまいましたが、「計画目標」というところで、先ほどの資料のものが整理されてここに KGI という形で入ります。

それでは、本日、具体的な情報発信・普及啓発からご説明をします。23 ページを開いていただければと思います。23 ページ、項番 4「ごみ処理基本計画」「4.1 情報発信・普及啓発」とあります。23～26 ページまでは骨子案と同様です。

なお、磐田副部長さまからこちらの 24 ページの下「ごみ・資源の分別収集」の見え方といますか、表現の仕方が少し混乱をきたすというご指摘、また 25 ページの下丸の表のところの平成 27 年から令和 6 年度の変化が、少し表現を工夫してはどうかというようなご指摘はいただきました。このあたりは少し整理したいと思います。

それでは、27 ページをご覧くださいければと思います。27 ページ以降、骨子案では方向性・施策例としていたものを、素案では実際の計画に調整・整理しています。初めに施策の方向性については、色塗りの部分は骨子と同様です。その下、「多様な区民像、事業活動に応じた『伝

わる仕組み』づくりを進め、『伝える』から『動いてもらう』、区民・事業者との共創型情報発信をめざす」とし、以下具体的な施策を 1-1 から 1-5 の 5 つに設定しています。詳しくは、この後でご説明します。

続いて、「取組の指標」です。指標の記載方法については、「取組の指標」「現状値」「めざす方向」の 3 項目で本計画では統一とします。「めざす方向」については、数字がどのように変化すれば改善や向上になるかについて補足説明の文言を記載しています。

それでは、具体的な内容に入ります。そのページの「取組の指標」です。2 つ設定しています。情報発信・普及啓発では、より多くの区民や事業者の方に情報が届く、伝わることを目指しているため、1 つ目として「区公式サイト『板橋かたつむり運動』ページ閲覧数」としました。「板橋かたつむり運動」は 3R を発展、拡大させた区の取り組みであり、このページを充実させ閲覧していただくことを重要と考えています。なお、こちらの実際の情報の発信につきましては、区では SNS を用いたりしていますので、そのようなところのフォロワー数なども指標として追加することについて検討しています。

続いて、その下、「リサイクルプラザで実施する講座・講演会・イベントの定員充足率」です。リサイクルプラザではさまざまな講演会や講座等を通じ、3R や循環型社会形成推進に係る情報発信・普及啓発を行っています。こちらの定員充足率を向上することが、指標として有効だと考え設定しています。

続いて、具体的な取り組みについてご説明します。次の 28 ページをご覧ください。施策 1-1「『板橋かたつむり運動』の普及・啓発」です。現在、シンボルキャラクター「かたつむりん」や「かたつむりのおやくそく」を活用していますが、さらに露出機会を増やすなど検討します。

続いて、施策 1-2「情報発信機会・コンテンツの充実」です。現在でも紙媒体、デジタル媒体、集積所看板等の掲示、各種イベントで発信を行っています。これらについて継続することはもちろん、紙媒体や掲示などからいわゆる 2 次元コードでデジタル媒体に誘導するなど、複合的・戦略的な発信を行っていきます。また、単に説明調・マニュアル調な情報発信にとどまらず、その下に具体的な例の丸が並んでいますが、下 2 つのような区民等の生活や関心に応じた、また取り組みの成果が分かるようなコンテンツの充実を図るものとしています。

施策 1-3 です。「あらゆる世代に向けた環境学習の充実」です。現在でも子どもから高齢者まで幅広く環境学習の機会の提供を行っており、これを継続するとともにライフステージや興味・関心、例えば環境行動への意識や活動の余力を意識した学習機会について検討し実施をしていきます。

施策 1-4 は、「地域との協働と共創による情報発信・普及啓発の推進」です。区では、リサイクル推進員などの個人やエコポリス板橋環境行動会議などの会議体など、定期・不定期の意見・情報交換の機会があります。こうした機会を活用し、区民や事業者の皆さまの日常的な行動の紹介等の横展開を図る、また機会で得た情報を基にしたごみ減量やリサイクル推進の活動を後押しする、または適正な排出行動を支援するための情報発信を行うというところで。なお、こちらについても磐田副部長さまからご意見をいただいています、「骨子案の中

ではいわゆるストーリー化というような文言がありましたが、こちらについて表現が少し変わっている、見えづらくなっている」というご指摘をいただいています。

施策 1-5 です。「多様な区民像に対応した情報発信の充実」です。区民の多様性を意識しまして、多言語リーフレットの作成や行動を後押しするリマインド通知を行うものです。以上が情報発信・普及啓発のご説明となります。

続けまして、「発生抑制(リデュース)」です。ページとしましては、30 ページになります。30 ページをご覧ください。30~33 ページの上段までは、骨子案と同様です。その下、「発生抑制の施策」からが素案(案)となります。初めに、施策の方向性について色塗りの部分は骨子と同様です。その下、「区民・事業者に対し、効果的な情報発信と行動の後押しを働きかけ、食品やプラスチックの資源の『もったいない』ごみ化を減らす」としています。以下、具体的な施策を 2-1 から 2-4 の 4 つを設定しています。

続いての 34 ページをご覧くださいと思います。「取組の指標」は 3 つ設定しています。1 つ目は、「ごみ減量イベントの参加者(希望者)数」です。区では昨年度から「食べきりレシピコンテスト」、今年度から「水切りチャレンジ」を実施し、区民の皆さまに参加していただいています。こうした事業の参加者を増やすというものです。続いて、「ごみ減量イベントにおける『継続活動宣言』率」です。イベントについては参加者数を増やすということももちろん重要ですが、継続していただくことも併せて重要と考えています。そこでイベントの参加者アンケートにおいて、今後の活動継続意識に関する設問を設け、それを指標とします。続いて、「食べきり協力店数」です。事業系ごみの減量の視点から、区で実施する事業の協力店数を計測するものです。

続いて、具体的な取り組みについてご説明します。施策の 2-1 では、「家庭系ごみの減量・資源化の促進」です。家庭から出るごみの 8 割を生ごみ、紙類、プラスチックの 3 つで占めることから、これらの積極的な減量を図るものです。具体的には見える化としての情報発信の他、ナッジを活用した区民が取り組みやすくするための SNS を活用した通知や家庭での取り組みチェックリストの提供など、区による実践機会の提供を行っていきます。

施策 2-2 は、「事業系ごみの減量促進」です。特に食品廃棄物の視点から事業者への情報発信と協力事業の実施を内容としているものです。食品ロスに関しましては、食品ロス削減に向けた施策でさらに具体的な内容を記載していきます。

施策 2-3 は、「販売店と連携した取組の推進」です。これは区民と事業者の双方に働きかける内容となっています。環境配慮型商品を取り扱ったり、あるいは簡易包装等の取り組みを行ったりしている事業者について区民に広く紹介するとともに、区民側に対しましてマイバッグ持参を働きかけるなど、販売側・消費者側が相互に取り組むことを支援・推進していきます。

施策 2-4 は、「循環経済に資する事業・サービスへの支援」です。国は、3R のうちリサイクルに比べて優先順位が高い一方、取り組みが遅れているリデュース・リユースの 2R の推進に向け 2R ビジネスの促進を図っています。所有せずに機能を買うビジネスモデルであるサービス化や、ものを長く使い回すことで環境と利益を同時に増やす付加価値の最大化について、既存のビジネスモデルの動向を区で把握しましてその連携を模索するとともに、区民の皆さまには

こうした背景を含めた情報発信他、マッチングの方法についても検討していきます。

54ページをご覧ください。項番5「食品ロス削減推進計画」です。54～57ページは、骨子案と同様となります。58ページからが素案(案)となります。

初めに、施策の方向性について色塗りの部分は骨子と同様でして、その下、「区民や事業者が『自分ごと』として取組めるような情報発信や行動支援、さまざまな活動主体との連携による食品ロスを出さない社会づくり」としています。なお、他の項目も同様ですが、色塗りの部分の表現方法、文言については適宜調整をしたいと考えています。

その下が、3つの方向性と9つの施策です。大項目として、食品ロス削減推進計画は先ほどの情報発信、発生抑制とを含むごみ処理基本計画、来月ご審議いただく生活排水処理基本計画と並ぶ3つの計画の一部を構成しています。そして、食品ロス削減推進計画はいわゆる施策が多岐にわたるため、計画と施策の間をつなぐものとして方向性という項目を設けています。また、食品ロス削減推進計画は、ごみ処理基本計画における各項目を食品ロスに特化したものとして策定する部分があります。このためごみ処理基本計画を前提に、各取り組みではより具体的な施策として設定しています。方向性と施策については、この後ご説明します。

「取組の指標」は、右側の59ページをご覧ください。「取組の指標」は2つ設定しています。1つ目は、「フードドライブ拠点数・回収量」です。フードドライブについては回収量を増やすことが重要ですが、昨今の社会経済状況などの影響による増減もあることから、併せて拠点数についても指標とします。2つ目は、区が実施する「区民意識意向調査における『環境のために取り組んでいること・今後取り組みたいこと』の回答割合」です。当調査では、区全体の施策に関する隔年の調査ですが、その設問における食品ロスに関する回答割合の増を図るというものです。指標につきましては、食品ロス削減量を直接把握することが難しい部分もありますが、代替となる指標を活用しながら施策事業を進める考えとしています。

続いて、各取り組みに行きます。59ページです。方向性1は、「区民・事業者への情報発信・行動のきっかけづくり」としまして、情報発信等を通じた意識の醸成・行動へのきっかけづくり、そして「もったいない文化」の定着を図ることとします。具体的には施策の以下の3つです。施策1として家庭における情報発信と行動支援、施策2で事業者向けの情報発信、続く60ページ、3つ目が家庭・事業者外における環境学習への副教材の提供や講座・学習等の学習機会の提供です。なお、食品ロス削減は食育との関係も深いことから、関係する部署との連携についても検討していきます。方向性1では、主に食品ロス削減に関する認知獲得と意識向上を目指すものです。

続いて、方向性2「食品ロスを出さない社会づくり」です。ここでは、方向性1の認知獲得を踏まえ、あるいは連動させて消費者・事業者が具体的な行動に移していくことができる施策を推進するとともに、事業者と消費者、事業活動・消費生活と福祉・防災など、さまざまな主体の連携とつながりの強化をすることを目指しています。具体的には5つの施策を設定しています。施策4～7については既存事業の継続であるとともに、家庭および事業者への支援強化・拡充という視点を持った施策群です。

施策 4「食品ロス削減キャンペーンの実施」では、さまざまな主体と連携したキャンペーンの実施、施策 5「『いたばしみんなの食べきりチャレンジ運動』協力店事業の拡充」では、現在通年で実施している同事業のさらなる拡充を図っていくものです。また、施策 6「フードドライブ事業の拡充」では、認知度と利用度に課題がある同事業において、窓口のさらなる広報活動を行うことを内容としています。施策 7「フードバンク団体、フードシェアリングサービス事業者等との連携」では、現在フードドライブ常設窓口で区民の皆さまから未利用食品を回収し、社会福祉協議会等へ渡すという仕組みで行っています。未利用食品を提供しようとする事業者への情報提供など、より広い主体が提供しやすく、かつそれを必要とする団体が受け取りやすくするための各種主体との連携を進めていきたいと考えています。最後、施策 8「防災備蓄品の活用」については、防災所管課と入れ替え時の配布などについて連携するものです。

最後に、方向性 3「取組の『見える化』」です。施策 9「食品ロスの発生状況・削減の取組結果の『見える化』」を行います。「見える化」については、リアルタイムや年度での区全体の量の把握は困難と考えているところですが、フードドライブなど個別事業の成果を公開したり、あるいは各家庭・事業所における取り組みをご自身自らで把握したりする「見える化」について、検討し実施をしていくものです。長くなりましたが、以上となります。よろしくお願いします。

○会長

ありがとうございます。情報発信・普及啓発、発生抑制、そして食品ロス削減推進計画というところで 3 点ご説明いただきました。特にどの部分についてというくり方はしませんので、委員の皆さまからどちらの点についてでも結構ですので、ご発言をお願いしたいと思います。ただ、時間が限られていますので、1 回の発言でご意見は全て含んでいただくようお願いいたします。何度もご発言いただくということではなくて、少し整理いただいて 1 回でたくさんの意見をいただいて、その都度回答をいただくということにしたいと思います。いかがですか。

○委員

29 ページなのですが、区民の多様性というところで、実は私の自宅の横がちょうどごみのステーションなものですから、毎日ごみの出方を気にしているところです。私道の奥に共同住宅があります。昨年まで非常に分別の状況が悪くなくて、その部分について区にいろいろと対応していただき、英語の表記とそれと中国語の表記をしていただきました。そうしましたら非常に改善しました。この 4 月からどうやら違う国の方が奥の共同住宅に入居されたようで、また分別の状況がひどくなっています。この外国語を併用した分別の分け方のリーフレット等ですが、これはまず何力国語の外国語を想定しているのかという点です。

次に、34 ページです。食ロスに関してはもちろん発生抑制が大前提ですが、例えば区の施設、大量に食品ごみが出る食堂、役所の食堂や、あるいは小中学校の給食のごみ等についての食品リサイクルについては、どのようなお考えを持っているのかという点について少しお尋ねをしたいと思います。よろしくお願いします。

○資源循環推進課長

事務局からお答えします。最初の 29 ページのいわゆる外国語リーフレットの言語ですが、リ

ーフレット自体は英・中・韓の 3 カ国と日本語の 4 カ国です。今考えていることとしては、全言語をカバーするというより、日本語をやさしい日本語という外国人の方でも分かりやすい日本語を使うことで、日本に来たばかりの方にとっても分かりやすいようにしたいということです。

続いて、34 ページの食品ロスの考え方です。食品ロスの考え方としては、いわゆる区が排出事業者としてどのように取り組むかというご趣旨と認識したところです。区でも学校給食や 1 階に食堂等とありますけれども、そのあたりについては実際に学校においてもそうした食ロスの取り組みを前向きといいますか、進めていくという考えを持っています。区全体としても、食品ロス削減というような意識は持っているところです。こちらが具体的にどのものをどのぐらい公表できるか、あるいは計画、進捗できるかについては、所管ごとによるという状況です。

○委員

ということは、今実際にある程度の量の食品残さが廃棄されていると思うのですが、その辺の資源化についてはまだ具体的な議論まで進んでいないということですか。

○環境政策課長

区全体としてごみの減量ということで取り組んでいまして、その中では当然いわゆる食品ロスといいますか、食品系の残さなどを削減しようということは区全体で取り組んでいます。特に、例えば学校などは、やはり学校給食ということで非常に大量の残さが出るということで、そこは 1 つの課題ということで、私たち環境部門も教育委員会と連携をしながら改善に向けた取り組みを進めています。今後、新年度含めて学校サイドで新しい改善に向けた取り組みができないかということで、現在検討を進めています。少しまだ現時点では対外的に公表できるころまでには至っていませんが、特にその点が改善されると非常に効果大きいということがありますので、もう 1 歩進んだ取り組みに踏み込めるように今検討しています。

○委員

ぜひよろしくお願ひしたいと思います。以上です。ありがとうございました。

○会長

ありがとうございます。

○委員

私からは 3 点お願いします。資料 2 の素案の 28 ページの情報発信の施策の中の施策 1-3 のところですが、「あらゆる世代に向けた環境学習の充実」という項目の中で、板橋区さんは非常にいい取り組みとして、シニア向けに板橋グリーンカレッジというものを開催されています。このグリーンカレッジの中の題材として生ごみ減、それから食品ロスなどの項目を取り入れた学習方法も検討されたらどうかと思います。それが 1 点要望です。

次に、資料 2 の 29 ページ、施策 1-4 「地域との協働と共創による情報発信・普及啓発の推進」の中で、丸の 1 つ目、それから 3 つ目のところです。1 つ目には「区民・事業者団体等との意見、情報交換の推進」、それから 3 つ目は「区内事業者、消費者との意見交換の実施」と書かれているわけですが、区としてどの程度の間隔で行っていくのか。区として区民、事業者団体な

どに仕掛けをしないと事業者や消費者、区民、それから区内事業者等の集まりができてこないと思うのですが、どのような仕掛けを考えておられるのかをお尋ねをしたいと思います。

それから最後 3 点目になりますが、資料2の 59 ページ、食品ロス削減に向けた施策の中での取り組み指標のところ、2 点目のところに区民意識意向調査を取り組みの指標の中に加えられるということで、回答の割合の増減を見ていくということですが、区民意識意向調査というものを聞いたことがありません。隔年ということですが、区民の対象をどのような選別で考えて意識調査をやられているのか、やっていくのかという部分で教えていただければと思います。以上です。

○資源循環推進課長

事務局からお答えします。まず、28 ページ、1-3 のグリーンカレッジでの生ごみ等の学習につきましても、実際にそのような所で学習の機会を設けることができるかにつきましても、この場で明言が難しい部分はありますけれども、話を聞きながらどのようなことができるかについては情報収集等に当たっていければと思っています。

続いて、1-4 の部分です。こちらは実際に現状においても、区民の皆さま、事業者の皆さまからお問い合わせやご意見等をいただく機会があります。そのようなところを活用するというのが一つとなります。また、実際に区民の方にはリサイクル推進員やその他の機会、環境行動会議等もありますので、そのような機会を活用するということです。また、実際の事業者団体の方は、少し難しさとして思っているのが、例えば食品ロスに関してさまざまな事業者の皆さまのお話を伺いたいとなった時に、基本は日中といいますか、お仕事をされているのでなかなか一堂に会してというのは難しいと思っています。そうすると、例えば、食品ロスの関係で事業の説明に上がる時などを活用しながら、個別でというところもあります。実際にそうした、基本的に区民の皆さま、事業者の皆さまはお忙しいと思いますので、そのあたりはなかなか設計が難しいと思いながらも、いろいろな機会を通じて意見を伺ったりしていきたいと考えています。

そして、3 点目の区民意識意向調査ですが、今回令和 7 年も実施していますが、こちらは対象としましては満 18 歳以上の区民 3,000 人を対象としています。いわゆる住民基本台帳から無作為抽出をしているというアンケート設計になっています。それぞれ分析としましては、さまざまな調査票の中で年齢、男女その他や居住地区なども書いていただきながら、全体としての方向性や実態が把握できるというような調査です。

○委員

ありがとうございます。2 点目の質問の中で、なかなか事業者が集まらない場合は事業者に訪問した際にやっていくということですが、ここで書かれている意味が、区民と事業者が一体になって意見交換することによっていいものが生み出せるという考え方で書かれているのではないかと思います。もう 1 点は、区内事業者と消費者の立場が違う人が同席で意見交換することによって、中身の良いものが出てくるもので、一方通行ではあまりいいものが出てこないということで設定されているという理解なのです。そのことに関して区としてどのような仕掛

けをされるのかということがお尋ねしたいと思ったわけです。以上です。

○資源循環推進課長

ありがとうございます。まず、区民の方の視点と事業者の方の視点をいかに合わせていくのかというところでは、一堂に会するのが難しいということであれば、ある意味区が翻訳者ではないですけども、その意見を聞きながら間に立つといいますか、そうしたことも 1 つの方法だと思しますので、そのあたりは少し検討したいと思っています。

○委員

ありがとうございます。以上です。

○会長

ありがとうございます。今の点は非常に重要で、磐田先生からも「共創」という言葉を使って、やはり区民の方や事業者の方に自ら動いていただくというところをどうやっていただくか、わかりやすく書くかというところをご指摘いただいていますので、ぜひ踏み込んでいただければと思います。

他はいかがですか。

○委員

3点ほどご質問したいと思います。21 ページ(5)で『オール板橋』のための一体感を醸成するデザイン、コラボ事業』があります。これは非常に狙いとしてはいいと思うのですが、具体的にどのようなプランを考えているのかをお聞きしたいです。

2 つ目が、28、29 ページのところ、先ほどもご質問が出ましたけれども「多様な区民像に対応した情報発信の充実」、施策 1-5 のところです。これはいろいろな施策をするのはいいのですが、区民のどのような人をターゲットにしてその施策をするかということをはっきりさせておいたほうがいいと思います。例えば、幼児・児童、小中高生、大学、専門学校、それから一般の人でも単身者や主婦、それから高齢者、海外の方、それぞれに特徴もニーズもあるし問題点もあると思います。児童や学校であれば、前回、小学校の 4 年生で環境教育があるというお話を小澤先生からいただきましたけれども、非常に重要なことで、板橋区の教育委員会とのコラボレーションによって、学校教育の中でもう少しリサイクルなどに関する話をさせてもらってもいいと思います。そのようなことをやっていくことが重要ではないかと思います。

大学生、専門学校生さんで、そのようなサークルや専門の学部や学科の学生といろいろと意見交換するなど、社会人であれば、単身者ですと普通はなかなかこのような区のものに來ないと思うのですが、やはり通勤経路などにポスターを張る、イベント掲示をするというようなことをやるとよいと思います。スーパーマーケットや自治会、マンションの掲示板も使って主婦や一般の方向けにしたり、高齢者であれば病院や介護施設にそのような情報を流したり、ポスターを掲示するなどの方法です。英語、中国語、韓国語、日本、そのようなものを含めたポスター掲示をするというような、具体的にそのターゲットに合わせたそのようなアクションを取っていかないと、一番怖いのは意識の高い人だけが参加するということになってしまいます。環境意識の強い人たちは行きますけれども、一般の人は何も知らない、というようなことにならないよ

うにお願いしたいと思います。

あと3つ目は、36ページに「集団回収の促進」というのがあって、「奨励金基準単価を引き上げる」というのを書いてあったのですが。

○会長

それは次回のところになります。

○委員

そうですか。すみません。あとお願いしたいのは、達成状況やアンケートなどを取った時に、いつのデータなのかという日時をデータに付けておいていただきたいと思います。そうではないと、古いデータなのか、フレッシュな湯気が出ているようなデータなのかというのが分かりませんので。

○会長

具体的には分からなくても、そのようなご意見ということで承ります。

○委員

はい。そのようなことで日時を記載していただきたいと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。回答をお願いします。

○資源循環推進課長

はい。ご質問ありがとうございます。最初の21ページの(5)、「オール板橋」のいわゆる一体感を醸成するデザイン、コラボというところで、1つ考えているものとしましては、現在こちらの資料にも載せましたけれども、区にさまざまな広報物や情報発信の媒体があります。その中にはごみ減量を書いてあるもの、あるいはリサイクルの推進が書いてあるもの、あるいはいわゆるごみの正しい出し方などのさまざまな情報がありますが、本計画ではそれぞれが全てつながっているという認識に立っています。

ただ、現在情報がそれぞれに出していて関連が分からない、つながりが分からないというところがあります。そうであれば「かたつむり運動」というところであれば、この行動が全部廃棄物の削減等につながっているのだということを見せるのが、一つ統一的なところだと思います。また、そうした部分を区民の皆さまと区全体で一緒になって進めていこうとなった時に、「かたつむり運動」などシンボリックなものがあれば、そこに皆さんが共感をしていただけるのではないかと趣旨があります。1つの施策の中では「かたつむり運動」の普及啓発というところで、「かたつむり運動」と聞けば「それですね」というようなところを目指すために、露出の仕方や見せ方などを考えていきます。

続いて、28ページ、29ページの多様な区民像というところでは、こちらについては、まさにさまざまないわば区民の数だけ多様性があります。実際にプラスチックの資源化を令和6年度から開始をする時に、1つ目指したものが、いわゆる区民の方が「プラスチックの資源化」という単語を見たことがないということがないようにというところがありました。そうすると、媒体としては紙と電子とイベントを設定していますが、実際に効果としては9割近く、皆さんの認

知があるというところでご理解いただいたと思っています。

そうした媒体をベースにしながら、紙でも電子でも、それに興味を持っている人と、いない人がいます。興味のない人はいわば目次だけといいますか、タイトルだけを見てすぐ次に行ってしまう。媒体を活かすということ、媒体のその次を見ていただくためには、お子さんや小中高生、高齢者の方、外国人の方と、その次のステップに進むということで、恐らくその設計をしないといけないと思っています。そのような点は非常にハードルが高いので、これから勉強ということになるのですが、そうした方々がまず目にさせていただく、目にした時に次の情報にたどっていただくというところのターゲットは、当然といいますか、考えていきます。

ただ、難しいのは、ごみの排出に関しましては、いわゆる全区民の皆さまが対象ですので、そこで優先順位という話はどこまで設定できるかという話はあると思います。ただ一方で、こうした方々にはこのようなツールを使って情報を届けたいという設計は、持っておくべきと思っています。

最後 3 点目ですが、データにつきましては、基本的には組成調査あるいはアンケート調査でして、実際にこの作成をする本編として整える際には、この後ろに資料編ということでいわゆる調査やアンケートの概要ページを設ける予定となっています。なので、基本的にはそのものがこの草案の各項目に反映されているということが分かるような説明といいますか、整理の仕方はしたいと考えています。

○委員

ありがとうございました。

○会長

他はいかがですか。

○委員

よろしくお願いします。私は商店街連合会の立場で参加しているのですが、食品の個別包装と量り売りのお店を基本にするという項目と、販売店の協力にマイバッグの持参、このマイバッグのことにに関して現在私が今一番思っているのは、今年食中毒が結構発生しています。魚の漏れ汁、肉の漏れ汁と野菜が一緒になって食中毒を何件か起こしています。このような事態をどのように考えているか、ご質問なのですけれどもよろしいですか。

○資源循環推進課長

はい。事務局からお答えします。実際に食品の安全といいますか、健康が最も大事と認識をしています。なので、実際にマイバッグを普及する際には、そうした安全・安心というところも昨今の情報を踏まえながら発信していきたいという視点を持っています。

○委員

ありがとうございます。

○会長

その他にいかがですか。お願いします。

○委員

はい。この 29 ページの多様な区民像に対応した情報発信や、データの 7 ページで人口の予測がされています。板橋区役所さんに伺ったとき、外国の方に、今日も上海から来た方に話しかけられましたが、「1 階のロビーはどこだ」と聞かれ、他の会議で来た時にも、海外の方に「地下鉄が分からない」ということを聞かれたことがあります。

9 ページを見ますと、板橋区さんは単独世帯が増えています。そうすると、それとこの施策の 1-5、多様な区民像に対して考えると、とても難しさを感じるところがあります。家族であれば、世帯単位にリーフレットなどを転入の際に渡し、マニュアル的にみられると思いますが、単身世帯の方、それから移動性の高い外国人の方に、ごみを減らすということをどう伝えられるという課題があると思います。

さらに、本多委員さんからご意見がありましたが、汁が出るものがあるのでごみ排出量も重く、もちろん食中毒もご注意くださいけれども、やはり実際に焼却場の底に水分がたまっています。それを攪拌しながら焼却炉に入れているわけです。もったいないというだけではなく、「実態はこうなのです」「エネルギー効率も悪いです」というところでお知らせをしていく必要があると思います。

そして、この施策の 1-4「地域との協働と共創」、これがキャッチコピーで、この施策の 27 ページのところでは「情報を『届ける』から、『伝わり、動いてもらい、共につくる』」、これが多分「共につくる」が「共創」ですよ。そここのところがきちんと連動するようなところ、そして自分ごとになる啓発へ進化、進むと、それから中黒を入れて深めるほうの深化という意味が 2 つあると思って読みました。以上です。

○資源循環推進課長

ありがとうございます。お話ししますと、いわゆる高齢者の方や外国人の方や単身者の方といたところに情報が届きづらいということについて、どう考えるかというのはまさに課題だと思っています。実際にプラスチックの資源化でも、要は「近所から聞いた」「家族から聞いた」というようなお声もあるので、そうしたいわゆる区から発信するだけではない区民の方同士、あるいはご家族、地域というところの視点もあると思います。そのあたりをなかなかハードルが高い部分もありますが、検討が必要だと思っています。

また、水分ということにつきましては、今年度「水切りチャレンジ」ということで、生ごみの水を切って捨てましょうというキャンペーンを行いまして、そうした中で情報発信等をしていければと思っています。

3 点目にいただきました「共創」というところですが、情報をどう発信するかの手前でどう情報をつくるかといいますか、発信する情報をつくるかという視点も大事だと考えています。その情報をつくるという観点から、いろいろな方のお話を伺う方法の設計については、今後また少し工夫を重ねていきたいというところです。

○委員

ありがとうございます。ここ板橋区さんがエコマルシェなどのようなものを行っているかどうかということと、私が住んでいる所は割と日常の普通の暮らしについて会話が生じます。そ

のような場を皆さん割と地域において、前向きな意見を言い合うというところをやっています。

可燃週 3 回については回収日が多いことから、この暑さでも臭いなどもあまり気にならないで、自宅に置いているのかと思ったりもします。

エコポリスセンターまで行って勉強するのは大変だけれども、もう少し日常的な会話で、地域のコミュニティーセンターの中などで、先ほどの食中毒の問題というようなところをもう少し何か対話の上で納得して取り組むこともあっていいと思います。五十万人以上も区民がいるので少し難しいのかとも思います。

○会長

他はご意見、ご質問いかがですか。

○委員

28 ページの環境学習の充実というところで出前講座の中に、板橋区には 69 カ所子ども食堂がありまして結構利用されているので、フードドライブやフードバンクを通じて子ども食堂に結構食料が行っているのですけれども、出前講座をその子どもたちにやっていただくというようなことも施策の中の一つに入れていただけると、非常に効果があるのではないかと思います。

それと、これはまた少し違うのですが、商店街連合会の中に入っていない商店街が結構あります。その中の小規模店舗というかそのような方々が、意外とごみ出しルールを守らずに、シールも貼っていないしごみを出す時間帯も夜に出したりしています。もしできることであれば、そうした商店街連合会に入っていない商店街の方々に対しての環境教育をぜひやっていただければ、これも施策の一つなのでここに書くべきかどうかは別として、ぜひご検討いただければと思います。

○資源循環推進課長

ありがとうございます。出前講座で子ども食堂に伝えることであったり、あるいは商店街連合会未加入の団体への普及啓発だったり施策の一つといたしますか、方向性の一つとして、皆さまにごみの削減であったりリサイクルの推進、適正排出を理解して取り組みいただくという視点は非常に大事です。どのような仕組みとどういけるかというのは検討の上ですけれども、幅広く皆さまにどうやったら伝わるかという視点を持っていきたいと考えています。

○委員

よろしくお願いします。

○会長

他はいかがですか。大丈夫そうですか。特になさそうであれば先に進みたいと思いますが、よろしいですか。

資料 3 については先ほどもご説明いただいたのですが、改めて何か追加があればどうですか。お願いします。

○資源循環推進課長

はい。先ほどは大変失礼しました。資料 3 につきましては先ほど、今回の素案におきましては「計画目標」と「達成目標」と 2 つについては、現在調整中というところです。ページで言うと、先ほどお話しした 20 ページと 22 ページが調整中です。

さらに、先ほど 22 ページの「計画目標」についてはご説明しましたが、もう一つ、20 ページの「達成目標」について本日お配りした資料の中に今の現段階の案がありますので、そちらについてご説明したいと思います。本日お配りした中で、A4、1 枚の紙で左上に「達成目標」と書いてある資料があるのですが、そちらをご覧くださいだと思います。こちらです。

○会長

このようなものはありますか。これの裏側です。

○資源循環推進課長

参考資料の 2 枚目ということで失礼しました。こちらについてのご説明をします。

こちらは達成目標として設定するものでして、素案 20 ページで記載するものです。達成目標は、基本理念である「人と環境が共生する循環型都市『エコポリス板橋』の実現」に向けまして、達成すべき目標であります。達成目標としては、「循環型経済社会の実現」と「循環型廃棄物処理システムの構築」の 2 つを設定しています。なお、この左側の循環型経済社会につきましては、今回計画でサーキュラーエコノミーという観点もあることから、いわゆる「循環経済」という単語や、あるいは法令で「循環型社会」というような表現があることから、こちらの文言については若干の調整を行うこととしています。

その下ですが、達成目標としては以上の 2 つですが、区民の皆さまに分かりやすくするために、これらが実現するということがどのような状態になるかというところを案として下にお示しをしています。その状態につきましては、下の矢印、「実現のために」の下にあります。その状態を「自分のこと、誰かのこと、地球のこと。できることから、ごみと資源の未来へ。」と表現をしました。ごみや資源が排出されるまでは、まずは手に入れて、使い、捨てる、あるいは資源に出すというように、大きく分けるとこのような工程があると考えています。これらの各シチュエーションにおいて、自分のこと、誰かのこと、地球のことを考えてできることから行動を選択すれば、それが目標の達成につながるという整理です。

以下、「行動の例」ですが、例えば最初の選ぶ段階では、まず自分のことを考えて必要な量だけ選ぶという行動を取る、あるいは誰かのことを考えて、所有でなく共有でもよいと考えることによってシェア・レンタルを使う、また地球のことを考えまして、この活用については再生品を選ぶというような、各場面において自分と誰かと地球とそれぞれの視点で取り組むと、それがいわゆる循環経済あるいは廃棄物処理システムにつながるという整理です。

また、少し右側の循環型廃棄物処理ということ言えば、例えば「行動の例」、誰かのことの一番右「わかる／資源化」であります。「ラベルを確認し分別」というところですが、次回になりますが、ここでは排出する際にいわゆる持続可能な収集運搬というところで、それを収集する方のこと、あるいはその後処理する方のこと、それを誰かのこととして考えて、自分のごみや資源を出すという時に思いをはせていただくという想定をしているものです。これらの本資料

につきましては、例示といいますか、案としてお示ししますが、文言や事例の調整をしながら達成目標のページに記載をすることを考えています。

少し前後しますが、同じ資料にありました参考資料の「板橋区版ごみ減量・資源化目標の設定例」についてご覧いただければと思います。A3 のこちらの資料になります。こちらでは、今後の区のごみ量・資源の見通しというところで記載をしています。左側、「区民1人あたりのごみ・資源の見通し」というところで、平成27年実績は記載のとおりです。これがいわゆる令和17年に向けまして、徐々に減っていくというような見通しに立っています。また、その下「年間排出量の見通し」ですが、こちら人口は線になりますが、人口は増加していきますが区民1人当たりの排出量は減るというところから、ごみの総量としても減るというように推計をしています。

右側に行きまして、「主要品目別のここ10年の変化」です。これは平成27年度、令和6年度のごみ組成調査から紙類、プラスチック類、生ごみ・食品ロスのごみ(可燃・不燃)への排出量を算出したものです。上から紙、中段がプラスチック、下が生ごみとなっています。上2つの紙とプラスチックにつきましては、ご覧いただきますと、そもそも年間排出量自体がこの間、現計画から昨年調査までの間に相当量減っているという状況があります。また、右側は区民1人当たりというところですが、区民1人当たりでも排出量が大幅に減少しています。この点、いわゆる資源の量を増やすという視点ですと、そもそも排出量が減るところがありますので、その設定にはそうした点は考慮する必要があると考えています。

一方で、一番下の生ごみ・食品ロスの排出量ということを見ますと、全体量としては微減となっています。生ごみ・食品ロスについては、年間排出量あるいは区民1人当たりの総排出量というところでも、それほどそこまで上2つの紙類やプラスチックに比べて大きな変化がないという状況になっています。このことから今回の計画では、引き続き生ごみ・食品ロスについては注力して取り組む必要があるという整理をしています。

少し説明が前後して申し訳ありません。参考資料、その他につきましては以上です。よろしくお願いいたします。

○会長

はい。追加でご説明ありがとうございます。最初に戻ってこちらはご質問いただいても構いませんとお伝えしましたので、もし計画目標のこと、目標設定例のこと、資料3も含め、今のご説明について何かご意見やご質問ありましたらお願いしたいと思います。いかがですか。

何度かご説明は聞いているところでもあると思いますが、この区民1人1日当たりのごみ量の分子は家庭系の生活系というかのごみ量だけれども、そこはいわゆる区の収集している事業系のごみも入っているということですか。

○資源循環推進課長

そのとおりです。

○会長

この辺の説明は多分その辺も含めて、どのデータが入っているかということも含めて、最終

的にどこかで説明があった上で出されるのが良いと思います。いかがですか。問題なさそうですか。

○委員

このデータを見て、なぜ生ごみが減らないのかということを考えると、やはり週 3 回というのは大きいのかと思います。私などは地域でもやもやカフェなどをやっている、「いや、私は 5 リットル袋で済むわ」等の会話のやりとりがあります。3 回もあると結構無造作に出してしまうのかなどと考えてしまいます。

○資源循環推進課長

はい。ありがとうございます。こちらの原因という部分では、なかなか調べ切れないものがあります。ただ、推測といいますか、想定されることとすれば、例えば紙類であればそもそも新聞の購読率が減っているなど、紙から電子に移るというところで紙そのものが減って電子に移るといえるということもあると思います。また、プラスチック類についても、容器包装等がいわゆる軽量化をするというところで、これまで過剰に包まれていたものが軽くなっているというところで、プラスチック全体が減っているというのも一つの要因としては考えられます。

一方で、生ごみは昔からといいますか、前から食べる量自体はそこまで変わらないとすれば、恐らく先ほどの何かに置き換わるというものに比べると、食品だけはなかなか置き換えるのは難しいというのは、具体的なエビデンスを持っているわけではないですけども、一つ考え方としてはあるかもしれないと思っています。

○委員

今の参考資料の目標設定例のところの「生ごみ・食品ロス排出量」の黒ぼち 3 つ目で、下のところですが、平成 27 年(2015 年)では生ごみ・食品ロスが一体化で表現されています。それと令和 6 年(2024 年)は、生ごみと食品ロスが分散された表現になっているのですが、この数字の取り方は具体的にどうなのかを教えていただきたいと思います。

○資源循環推進課長

事務局からご説明します。食品ロスに関しましては、今回計画を定めるに当たって、少し特化して細かく調べたという部分がありまして、そのようなところがこうした結果が出ているというところです。

○委員

それと、先ほど部会長さんから話があったのですが、この量の算出はこれにも事業系と家庭系は合算という理解でいいですか。

○資源循環推進課長

こちらにつきましては、区民 1 人当たりのごみ量ということでして、基本的には区収、区が収集しているごみになります。

○委員

私ごとですが、以前に環境省が出している資料を見た時に、事業系のごみ及び食品ロスの目標と家庭系の目標が別になっていました。自治体から吸い上げた数字がそっくり来ている

のかと私なりに思うのですが、このような区別は実態としてできないのですか。事業系と家庭系を国の方では分けているようですが、自治体ではそれができないという理解になりますが、それはどうなのですか。

○資源循環推進課長

はい。事務局からお答えします。区の収集の区分としましては、いわゆる区が収集しているもので日量 50 キロ未満であります。一方、許可業者の方に集めていただいている部分というのはあって、これは持ち込みごみの形になります。やはり事業系と広く捉えた中で、区収集の部分を事業系だけ取り除けるかという取り除けないということになりますので、区が収集する中ではそこだけ取り除くというのは難しいというのが現状です。

○委員

分かりました。

○会長

頂いているご意見を含めても、なかなか事業系の方に対する出し方のマナーの話もありますし、それから区民はこれほど頑張っているのになかなか見えてこないなど、いろいろな気持ちの面のご意見が出てくるとも思います。もちろんデータはきちんと分けて取るようにするというのが、それは一つの方策なのですが、それは難しそうですし現実的ではないこともあります。

区収集をしている事業者の方々にももう少し働きかけて、この指標のここに「区民 1 人 1 日あたり」と書いているけれども、ここにはあなたたちのごみも入っていますと。だからその削減をもっと頑張れるようにしましょう伝えたり、そのための施策をしたりするということを考えていただくといいと思います。

それが数字にどのぐらい見えてくるかというのは難しいですが、そのようないろいろなご意見が出てくる中で、「事業系もあそこに入ってくる数字なのだよね」というところと、事業系の出し方というところにいろいろな区民の方の考えがあってというところを少し考慮して、そこを気にしたような施策というのも打っていただくのがいいと思います。

さらに、先ほどもおっしゃいましたが、行動と因果関係がはっきりと出ていないというところもあります。逆に言うと、その中で今回食ロスの施策で 1～9 まで出していただいているので、それがどのぐらい効果があると見込んで、数値的にこれで何%などというところまで言う必要はないですが、どのぐらいここは削減に効果があるかということです。やはりある程度見込みながら目標値をここまで減らすために、この施策が有効だ、あるいはもしかしたら回り道かもしれないけれども必要だということを、もう少しその辺が理論武装というかきちんと説明がつくような形になるとなお良いと思いました。

その他にいかがですか。よろしいですか。

次回もこの素案のご説明が続きますので、また同じ資料というか、これが更新されたものを使いながらということになると思います。また時間があつた時には戻っていただいて、「ここはどうなったのですか」ということをレビューする機会も出てくると思いますので、その際にご意

見いただければと思います。今日もいろいろとご意見いただきましたので、事務局ではまたこれを参考に頂いて、次回の計画の策定を進めていただければと思います。何か事務局から全体通してもしあればお願いします。

○資源循環推進課長

ありがとうございます。さまざまなご意見をいただきましてありがとうございました。内容につきましては反映をしまして、整理をして、また 8 月、次回にお示しできればと思いますので、よろしくお願いします。

○会長

はい。次回は、8 月 6 日の 13 時ということになっていまして、あいにく私は欠席ということで不在なのですが、磐田副部会長に進行をお願いしています。ご容赦願いたいと思います。特に追加でご意見等がなければ、これをもちまして第 4 回の清掃・リサイクル部会を閉会したいと思います。どうも今日はありがとうございました。